

- 16) 石田貴文・山本興太郎(1987): 霊長類におけるEBV感染性と抗体の分布. 第46回日本癌学会総会記事: 103.
- 17) 浅岡一雄(1987): サルのアシルCoA 薬物代謝酵素系の分布と性状. 第60回日本生化学会大会, 生化学 59:597.

系統研究部門

江原昭善・野上裕生・相見 満・瀬戸口烈司

研究概要

1) 霊長類各分類群の比較形態学的研究

江原昭善

(I) ヒトおよび霊長類の下顎骨の機能的・形態学的研究

(II) ヒトおよび霊長類各分類群における頭蓋底部と姿勢の関連

2) エチオピアにおける化石霊長類および化石人類の研究

江原昭善・相見 満

3) ヒトを含む霊長類の起源と系統

江原昭善・相見 満他

4) 東海地方出土人骨・動物骨の研究

江原昭善・相見 満・木下 実

5) 刈谷市出土人骨・獣骨の調査総括

江原昭善・相見 満

6) 南アフリカの第三紀の地史学的研究

野上裕生

7) 霊長類の歯の組織学的研究

野上裕生

8) ジャバにおける第四紀哺乳類の研究

相見 満

9) 第三紀霊長類・食虫類および有袋類の研究

瀬戸口烈司他

(I) 南米出土化石について

(II) 南米大陸とヨーロッパ大陸出土の第三紀食虫類化石の対比

論 文

- 1) 江原昭善(1987): 咀嚼システムのホミニゼーション. 文部省特定研究「咀嚼システムの基礎的研究」総括班, 咀嚼システム入門. 風人社: 181-192.
- 2) Cadena, A., Nogami, Y. (1988): Fine

structure of the dental enamel in the Order Chiroptera from Colombia, South America. Kyoto Univ. Overseas Res. Rep. New World Monkeys 6: 37-44.

- 3) Aimi, M. and Inagaki, H. (1988): Grooved lower incisors in flying lemurs. J. Mammal. 69 (1): 138-140.
- 4) Setoguchi, T. & Rosenberger, A.L. (1987): A fossil owl monkey from La Venta, Colombia. Nature 326: 692-694.
- 5) 瀬戸口烈司(1987): 野生のサル類にみられるディスクレパンシー. 歯界展望 69: 1187-1200.
- 6) Hanamura, H., Uematsu, Y. and Setoguchi, T. (1988): Replacement of the first premolars in Japanese shrew-moles (Talpidae: Insectivora). J. Mammalogy 69: 135-138.

総説・報告

- 1) 江原昭善(1988): 化石に基づく人類の起源と系統. 昭和62年度科研費「霊長類の進化と人類の起源」(代表者: 野澤 謙)報告書.
- 2) 江原昭善(1987): 人類. 日本放送出版協会.
- 3) 江原昭善(1988): 霊長類学・自然人類学からの提言. シンポジウム「人間」概念の自然科学的・人文科学的再検討.
- 4) 江原昭善(1988): ヒトのはじまり. 第17回ホミニゼーション.
- 5) 相見 満(1987): ラマルク再訪. 生物科学 39(4): 200-206.
- 6) 瀬戸口烈司(1987): 化石をとおして見た進化論(連載). 有袋類の地理分布について. ライフサイエンス 14(6): 68-71. 南米への化石さがしの旅. 同上 14(7): 66-70. 「分子時計説」再考. 同上 14(8): 68-71.
- 7) 瀬戸口烈司(1987): 食性と歯の進化. デンタルハイジーン 7: 903-912.
- 8) 瀬戸口烈司(1987): 分子進化と化石. モンキー 31(1,2): 18-21.
- 9) Setoguchi, T. and Rosenberger, A.L. (1988): A fossil owl monkey from La Venta, Colombia. Kyoto Univ. Overseas Res. Rep. New World Monkeys 6: 1-6.

- 10) Setoguchi, T., Takai, M., Villarroel, C., Shigehara, N. and Rosenberger, A.L.
(1988): New Specimen of *Cebupithecia* from La Venta, Miocene of Colombia. South America. Kyoto Univ. Overseas Res. Rep. New World Monkeys 6:7-9.
- 11) Takai, M., Setoguchi, T., Villarroel, C., Shigehara, N. and Rosenberger, A.L.
(1988): Preliminary report of small mammal fossils from the La Venta fauna, South America. Kyoto Univ. Overseas Res. Rep. New World Monkeys 6:11-14.

学会発表

- 1) 相見 満 (1987): コノハザルの学名の確立を目指す。第3回日本霊長類学会大会。
- 2) 瀬戸口烈司 (1987): 中新世中期のヨザルの化石。第3回日本霊長類学会大会。
- 3) 瀬戸口烈司 (1987): 南米コロンビアの中新世ラ・ベンタ哺乳類動物群について。日本古生物学会第186回例会。
- 4) 瀬戸口烈司・茂原信生 (1987): ヒト以外の動物に見られるディスクレパンシー(歯と顎の不調和)。第29回歯科基礎医学会総会。
- 5) 瀬戸口烈司 (1987): ヨザルがはらむ霊長類社会進化論への問題点。第41回日本人類学会・日本民族学会連合大会。
- 6) 瀬戸口烈司・小沢智生・川合康司 (1988): 岐阜県可児町中村層産出の中新世ヤマアラシについて。日本古生物学会1988年年会総会。

ニホンザル野外観察施設

岩本光雄(施設長・兼)・東 滋・渡辺邦夫・足沢貞成¹⁾

本施設の運営は上記3教官のほか、和田一雄・鈴木 晃によって進められた。昭和62年度の各ステーション関係の状況は次の通りである。

1. 幸島観察所

幸島の群れは昭和23年以来の蓄積された資料を

もとに野外観察施設の中では独自の位置を占めている。今年度は室山によるグルーミング関係の研究、宮藤による群れの総合度の研究(いずれも霊長研大学院生)などが行われたほか、渡辺邦夫・森 明雄(生活史)・河合雅雄(日本モンキーセンター)などの手で、これまでの30数年間に及ぶ長期観察データのまとめが精力的に行われた。内容はポピュレーション、順位、文化行動など多岐にわたり、いずれまとめとして出版される予定である。今年も春先から夏にかけて、砂が島との間に堆積し、地続きになる状態が現出した。夏の台風によってその状態は解消されたが、観光客が島へ歩いて渡れるため、サル番を出す日がやはり多かった。一方では、対岸に石波の船だまりをつくる工事が行われ、これまであった防波堤のかさ上げや陸地側への延長があった。折りからのリゾートブームなど観光客の増加も考えられ、注意深く見守っていく必要がある。63年8月の時点での島内の個体数はマキグループ10頭を含め99頭であり、この10年間ほとんど変動していない。マキグループでは昨年ノスリにとってかわったゲバがボスとして安定し、その他主群、マキグループとも主だったオトナオスの出入が頻繁にくり返され、それぞれの顔ぶれが大きく変わった。今年度の出産は14頭であり、うち4頭が死亡した。

2. 下北研究林

岡野美佐夫・東 英生(野生生物保護管理事務所:共同利用研究員)によってM群について非積雪期の遊動の調査をオトナメス2頭に50MHz帯のテレメーター送信器を装着して行った。森 治・和田 久らによって、リタートラップによる落枝、落葉、落果量の測定が行われた。冬期の調査は12月~1月足沢・岡野・中山裕理(北大農)・東らによってM、I、Z群を対象に、2月~8月に足沢・東らによってZ群を対象に行った。Z群については分裂または、84年厳冬による大巾な個体数減が、I群については分裂とかなりの死亡が確実である。8月は脇野沢諸群の調査に足沢が参加した。

3. 上信越研究林

横湯川流域の植生とSeed trap法による果実生産量の継続調査の続行(小見山章・岐大、陸 斉ら・東京農工大)、志賀A群・C群等のニホンザルの行動・生態・社会学的研究が行われた(陸 斉ら、長谷川寿一ら・東大、鈴木 晃)。山本教

1) 教務補佐員